

2015 年 2 月 15 日「善の結実体になる」 石川祐司教会長

以下に訓読のみ言を掲載いたします。

< 訓読のみ言 >

『天聖經』

第七篇 地上生活と霊界 第二章 霊界とはどのような所か

第四節 天上天国に行く道 人生の結実体

2 善の神様と、その反対の悪のサタンの間に挟まっているのが人間です。ですから。一生かけて「私」が善を追及しながら行くようになる時は、善の神様が共にあるのであり、その反対に立つようになる時は、悪のサタンが共にあるのです。これが現在の人間の運命です。一生の路程で、善の神様を慕いながら善のみを残すことができる道をどのようにして立てていくかということが、人間が何より希望することにならざるを得ません。そうすることによって善の神側に立つことができますが、できなければ悪の側に帰結します。

絶対的な善を中心としていらっしゃる神様を人間が絶対的に信じ、その方と一つになる道を模索することによってのみ、私たちの人生行路が善で始まり、善の過程を経て、善の結実を結ぶことができます。私たちが一生をすべて生きたのち、善と悪と一つ一つ差し引きしたときに、悪が善より多ければ悪の主管圏内に帰結し、善が悪より一つでも多く残る時には、善の主管圏内に帰結するのです。

3 私たちの一生の中から、善と悪を一つ一つ抜き取ったとき、最後に残るものが善であってほしいというのが人間の願いです。しかし、善よりは悪が残しやすいのが私たちの人生行路です。一時代の数多くの人類を総合して見てみると、一人一人の善と悪を差し引いたあと、善よりも悪が残るならば、この地上に生きている人は善の人ではなく悪の人であり、またこの社会は善の社会ではなく悪の社会だという結論が出てきます。

4 善悪というものは、思いの中で決定されるものではありません。善悪というものは生活圏内で決定されます。天国と地獄は、皆さんの観念の世界で決定されるのではなく、生活舞台で決定されます。これは重要です。電車に乗って人々を見回してみると、気分の良くない人がすぐに分かります。気分の良くない人は自分よりも霊力が低いのです。しかし、気分の良い人は、それ以上の人たちです。もし、霊的な体験のある人がいれば訪ねてくるのです。そのような人はすぐに分かります。動物も自分の生死が分かるのですが、万物の霊長である人間が、自分の人生を知らずに生きるのですか。すべて私利私欲にとらわれ、神様に背を向けて生きているので分からないのですが、神様と共に生きれば分かるようになります。